第二次指導　第一時

（児童着席し、準備を始める）

○　じゃあ、ご挨拶をしましょう。おはようございます。

おはようございまあす。

○　ご挨拶の声がいい声になりました。お勉強本気でやって来た声です。注文の多い料理店、今日最後の授業になりました。読んでもらうんですが、昨日、お家に帰って読んでみた人、手を上げてごらんなさい。

（全員挙手）

一　よむ

○　今日は、全部は読まないで、半分だけ読んでもらいます。今日、読む人は、あなたからでしたね。そうすると、あなたが一番、二番、三番、四番、五番、そこまで読んでください。あなたは、黒板を読んでもらいます。

（五名とも、しっかり読み終える）

○　落ち着いて、よく考えている読み。こういう読みができるようになると、勉強がうんとできるようになる。素晴らしいねえ。　（一〇分経過）

二　とく

○　二人の紳士は、いかにも東京からやって来たなということが一目で分かったでしょう。どういうところで分かった。

東京の店だって…、裏通り…。

○　紳士を一目見て、この人田舎の人じゃないなあって、どこで分かった。

紳士がイギリスの兵隊さんのような格好をしていたから。

○　狩りをしに来たのに、とってもお洒落しているでしょう。ネクタイ締めたりカフスボタンしたりして。（カフスボタンの補説）

○　兵隊さんのハイカラな格好を、みんなにどうしてほしいの。

そういう格好を見せて、褒めてもらいたい。

○　自慢しているの。もう一つ自慢するものがあったでしょう。何。

鉄砲だと思います。

○　そう、それもある。連れていたは。

白熊のような犬です。

○　白熊のような犬ね。この犬の何が自慢なの。

白熊のような、汚れていなくてきれいな犬。

○　そうね、それも自慢ね。まだあるんだよ。

その犬の買った値段が高いことが自慢。

○　高い犬なんだぞっていうのが自慢なの。その証拠にね、犬が気を失って泡を吹いて死んじゃったでしょう。紳士はその時にどうした。

ううんと、買った分の値段、を損した。

○　損したって言ったでしょう。命よりもお金のことを考えるの。自分の格好ばっかり考えるの。それを見て、しめしめと思ったのが、誰ですか。

山猫の親分です。

○　山猫の親分ですよ。しめしめどうしてやろうと思った。

料理して食べてやろうと思った。

○　そのためには、仕掛けが要った。その仕掛けに何をしたんですか。

ドアに注文を書いた。

○　表にも裏にもたくさん書いたでしょう。　（板書　注文）

○　仕掛けは、注文だけじゃなかったのよ。こういう人が引っかかるようにね、小道具を使ったの、お芝居みたいに。例えばね、あの玄関、考えてごらん。白い瀬戸の煉瓦を組み合わせたすごい立派な玄関。その頃、そんなのあまりない。どんな戸だった。

ガラス戸の戸だと思います。

○　ガラス戸の素敵な戸。おまけに金色の字が書いてあったでしょう。この他にも、例えば、味付けをした部屋を思い出してごらん。お部屋の前の方に何が置いてありました。クリームが入っていたの何。

壺です。

○　ガラスの壺なの。高いんだよ、香水が入っていたのは何。

金ピカの香水入れ。

○　金色でピカピカの香水の瓶なの。紳士は好きだろうね。塩は、何に。

ええと、青い瀬戸の、塩壺。

○　瀬戸の塩壺って有名で高いんだよ。立派な小道具がいっぱい置いてあるもんだから、二人の紳士は、ころりっと騙されたんだね。

○　紳士は、これまで、こんな山の中、どんなとこって思っていましたか。

山の中と思って見くびっていました。

○　獣一匹とれないからって、怪しからん山の中だと言って馬鹿にしとったでしょう。ところが、立派なレストランが出てきた。こういうレストランって、東京にたくさんあるの。あるか、ないか。

ない。

○　めったにない。そういう所へ来るお客さんって、どんな人だと思う。

お金持ちの人。

○　そう。お金持ち…。もうちょっと、どういう言い方か分かるかな。

貴族の人です。

○　お金持ちでも、ただのお金持ちじゃあないんだよ。身分の高い人。例えば、貴族のような。その偉い人がやって来る所だと、考えたのが、ここに出てくるのだけれど、何番のところ。　（各自　探す）

〈手引き〉

○　五番のところを出してみなさい。そこのところにね。偉い人が来るんじゃないかなあ、と紳士が考えた所があるの。今日は、そこを書いてお勉強します。注文があるでしょう。五番の最初の注文、指で押さえてごらんなさい。「お客様がた、ここでかみをきちんとして、それからはき物のどろを落としてください」。ここと、次に、紳士が二人でお話しているでしょう。「これはどうももっともだ。ぼくもさっきげんかんで、山の中だと思って見くびったんだよ」、もう一つ、「作法のきびしいうちだ。きっと、よほどえらい人たちが、たびたび来るんだ」。注文の所の鈎括弧とお話のところの鈎括弧の印がちょっと違いますから、そこを気を付けて書いてね。二つお話が出てくるから、お話を続けないようにね。一つのお話が終わったら、次のお話は、上から書いてください。

（二三分経過）

三　よむ

四　かく

（一斉に書き始める）

○　もう書いた。早いね。　（板書を確かめた後、机間指導）

○　しっかり書いてありました。今度黒板を見てお勉強しますから、全部しまってください。机の上は、全部空にします。　（三五分経過）

五　よむ

○　次、あなたね。立って、大きい声で読んでください。

（しっかり音読する）

○　落ち着いてよく読んだね。

六　とく

○　分からない言葉ありますか。

（板書　見くびったに傍点）

○　見くびったってどういうこと。

甘く見ている。

○　うまい言い方したね。馬鹿にしているってこと。それで、作法って。

マナー。

○　うまいこと言ったね。ここではお食事のマナーね。（傍点を付けながら）うちって、何のうち。

ええと、うちというのは…。

○　ここでは何。

山猫軒の店のことをいいます。

○　お料理店のこと、山猫軒のことね。

○　これは、山猫の言ったことね。（板書　山）これは、（し　と二か所に板書しながら）紳士の言ったことに分けますね。こっち山猫。こっちは紳士です。　（板書　縦棒と括弧）

○　紳士の方を見て考えますね。紳士、都会から来た人だなあというのが

分かる言葉あるの、何。
見くびったという言葉です。
○　ここ。（傍点を○で囲みながら）こんな山の中大したことないやっていうね。もうこれで、都会から来たというのがよく分かるよね。
○　そこで、山猫は、二つ注文を出しました、何。
髪をきちんとして…。
○　一つは、髪を、きちんとすること。　（板書　傍線と1）
それから、履物の泥を落とすこと。
○　履物の泥を（傍線）落とすこと。（板書　2）山の中だと思って、馬鹿にしなさんなと。ちゃんあんと、こういうところは厳しいんだよと。
○　それで、この注文を見て、紳士が喜んじゃったんだよ。何に喜んだの。喜んだ言葉がある。
自分たち以外に偉い人が…。
○　今、言った中の、何という言葉。
よほど偉い人。
○　そう、よく見つけたな。嬉しいね。　（板書　傍○）
○　この注文を聞いてね。偉い人、それも一人じゃないよ。どこで分かる。
えらい人たちがの、「たちが」という所だと思います。
○　（よほどの傍○を二重に）よっぽど偉い人が何人も。もう一つ嬉しい言葉は。
たびたび来るという所だと思います。
○　（傍点）一回じゃないんだよ、度々来るんだよ。
○　そういう人たちと一緒になって、食事をする。そうすると、周りの人が、二人を見た時に何て思うんだろう、二人の紳士のこと。
うんと、偉い人たちとか、思われる。
○　偉い人だなあって、思われると、紳士は考えたんだねえ。そうして、紳士は、注文というのを勘違いしたんです。何だと思ったの。ここの中の言葉で漢字二文字。分かった。先生、今朝気がついた。
作法です。
○　その通りです。脱帽だな。ありがとう。（傍線）作法だと、思ったんだよ。作法が厳しい。そう思ったから、山猫の出す注文が、どんどんどんどん増えても、ああ、作法が厳しいんだって言うとおりにした。とうとう顔がくしゃくしゃになった。元に戻った。
戻らなかった。
○　何をしても戻らなかったでしょう。あなた達、気をつけないとこういうことになるよって、山猫は、教えているんだよ。恐いようだけど、どこか抜けてて、愛嬌があると思う。（会場に笑い）先生、今日ね、白い字で書いたでしょう。本当は何色。覚えている、何色だったか。
赤。
○　（板書　赤）赤で書いてあったんです。赤い色ってどういう意味。信号なんかでも考えてみると、赤って何を教えているの。
赤とか、注意とか、そういう意味かなと思いました。
○　ここで、山猫が、わざわざ危ないよって教えたのに、二人の紳士は、わあ、偉い人が来るんだあ、作法が厳しい家だあ、と喜んでいたから大変なことになった。命は助かったからよかったけど、東京へ帰って、毎朝鏡でくしゃくしゃな自分の顔を見て、一体何を考えるんだろうねえ。（会場に笑い）それは、みなさんの宿題だ。聞いてみたいなと思うけど。
○　あと、九番のものすごく恐ろしい目にあったところは、担任の先生と一緒にお勉強してください。
（四四分経過）

七　よむ

（指音読　張りのある声で読む）
○　うまいねえ。先生が山猫のところを読んで、みんなは、紳士のところを読んで。「お客様方、ここで髪をきちんとして、それから、履物の泥を落としてください。」　（続いて、張りのある声で読む）
○　うまい。それでは、女子の人、注文のところをやって。あなた、この紳士をやって。あなたは、ここの所をやって。先生、鞭はしないけど。
（役割分担で、少しつかえたが、しっかり読む。）
○　うまい。最後、劇までやってもらいました。
○　非常に楽しい三日間でした。ありがとうね。みなさんと会えてお勉強ができてうれしかったです。夏休み、長いですが、体に気を付けて、二学期、また元気に学校に来てください。
はい。
○　じゃあ、終わりましょう。　（礼）
（児童のお礼の挨拶）
（四六分経過）